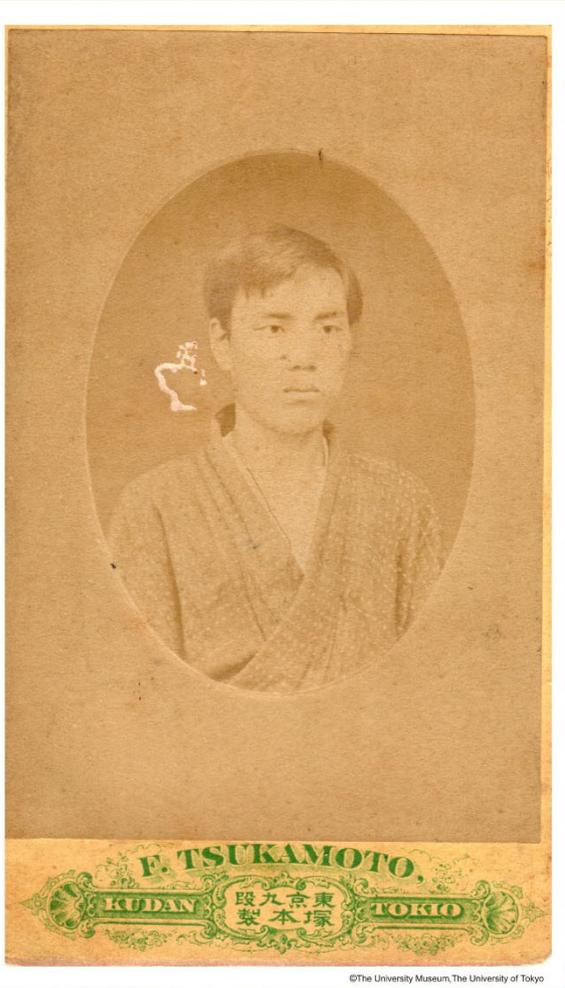
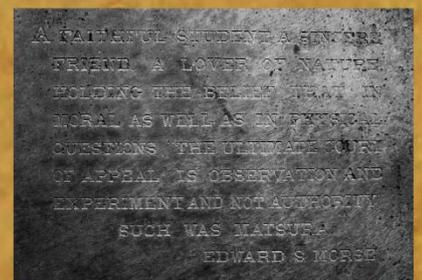


松浦佐用彦と研究者たち



©The University Museum, The University of Tokyo

物の興廃は必ず人による
人の昇沈は定んで道にあり
豊永郷から道を求め続けた松浦佐用彦
日本最初の近代考古学者
日本で最初に種の起源を読んだ人物？



エドワード・モース記

豊永郷民俗資料館企画展示

令和5年5月5日(金)～9月30日(土)

時間 午前9時～午後5時
休館日 無し
入館料 大人500円
大学・高校生300円
小中学生100円

豊永郷民俗資料館
高知県長岡郡大豊町粟生158
TEL.0887-74-0305



さよひと君®

豊永郷民俗資料館企画展

豊永郷（現高知県大豊町）は四国の中央部に位置し、吉野川沿いの急峻な山間地域です。この場所から江戸末期に、東京で学ぶために旅立った人物が松浦佐用彦（以下 佐用彦）です。松浦佐用彦は日本で最初の近代考古学者といわれています。エドワード・モース（以下 モース）の記録には「特別学生」とあります。現在の大学でいえば、モースは佐用彦の担当教官に近い存在だったと考えられます。佐用彦の周辺には、同じように志を持ち上京した研究者がいました。モースと同僚で牧野富太郎との縁が深い東京大学理学部で植物学を教授する矢田部良吉、その助手の松村任蔵（任三）。4人は江ノ島に研究所を作り採取や研究を行っています。またモースが発見した大森貝塚も4人を含む人々が発掘作業を行っています。後にモースのもう一人の特別学生である佐々木忠次郎も発掘作業をおこなっています。末延道成は高知県の同郷であり、東京大学では同級生でした。今回の企画展では松浦佐用彦や研究者たちについてパネル展示を行います。佐用彦墓碑改葬時の出土物の展示やエドワード・モースが言葉を刻んだ佐用彦の墓碑をお参り頂けます。

松浦佐用彦（1856-1878） 豊永郷黒石（現 高知県長岡郡大豊町黒石）出身

土佐藩の給費生として、東京外国語学校に入学卒業し、東京大学に入学する。エドワード・モースの第一学生と記録されている。

エドワード・シルベスター・モース（1838-1925） アメリカ北東部のポートランド出身

動物学の教授。日本では民俗学的スケッチ、日本の民具の収集活動も行っている。民具は現在もセラームのピーボディ博物館に展示されている。

矢田部良吉（1851 - 1899） 伊豆国田方郡韮山出身

コーネル大学で植物学を学び、帰国後、東京開成学校五等教授になる。東京博物館植物園を兼務している。1877年に東京大学理学部教授に就任し、東京大学における植物学の中心人物となる。牧野富太郎が学ぶ。

松村任蔵（任三）（1856-1928） 茨城県下手綱出身

水戸藩松岡領中山家家臣松村鉄次郎の長男として、下手綱に生まれる。東京大学小石川植物園に勤め、モース、矢田部良吉に随行し海洋生物・植物採集を行う。1883年に東京大学助教授に就任する。

佐々木忠次郎（1858-1938）

福井藩士佐々木長淳の長男として生まれる。『東京開成学校一覽』には理学予科第4級乙に松浦佐用彦と並んで掲載されている。東京大学で動物学をモースに、植物学を矢田部良吉に学ぶ。1922年に東京帝国大学名誉教授となる。

末延道成（1855-1932） 高知県香南市出身

立誠の長男として生まれた。東京大学で学ぶ。ロンドンから帰国後、日本郵船を辞して三菱の保険部門を専担する。荘田平五郎、銀行の豊川良平、海運の近藤廉平と並び「三菱の四天王」と称される。

日下部東作（1838-1922）

書家。彦根藩士であった田中惣右衛門の次男として生まれ、同じ彦根藩士の日下部三郎右衛門の養子となる。「日本近代書道の父」と評される。